

2012年度リエゾンゼミⅡの教育効果に関するアンケートの結果（報告）

FD委員会

I. アンケートの概要

2013年1月から2月に2年生を対象にユニパのアンケート機能を用いて実施した。アンケートは、回答者の属性、施設・設備等の利用状況、学士力達成度19項目（キャリア形成への取り組みを含む）、意欲2項目より構成。235名の回答が得られた（回答率17.5%）。

II. 全体の傾向

1. 回答者の属性と施設・設備等の利用状況

回答者の学科構成を表1-1、属性を表1-2に、施設・設備等の利用状況を表2に示す。

学科名	度数	%
社会福祉学科	92	39.1
社会教育学科	25	10.6
福祉心理学科	24	10.2
産業福祉マネジメント学科	21	8.9
情報福祉マネジメント学科	23	9.8
子ども教育学科	28	11.9
保健看護学科	1	0.4
リハビリテーション学科	3	1.3
医療経営管理学科	18	7.7
総計	235	100.0

項目	カテゴリ	度数	%
性別	男性	82	34.9
	女性	152	64.7
	無回答	1	0.4
入試形態	AO入試	18	7.7
	推薦入試	64	27.2
	一般入試	153	65.1
居住形態	自宅	100	42.6
	自宅以外	135	57.4
部・サークルの所属	有	171	72.8
	無	62	26.4
	無回答	2	.9
ボランティア活動	有	155	66.0
	無	80	34.0
国際交流経験	有	19	8.1
	無	214	91.1
	無回答	2	.9
アルバイト経験	有	194	82.6
	無	41	17.4
キャリアデザインⅡの履修	有	26	11.1
	無	208	88.5
	無回答	1	.4
実学臨床教育 (総合福祉学部のみ)	有	7	5.0
	無	131	92.9
	無回答	3	2.1
副専攻の履修 (総合福祉学部、総合マネジメント学部のみ)	有	19	10.3
	無	145	78.4
	無回答	21	11.4

表2 利用状況						
		頻繁に	ときどき	たまに	なし	無回答
図書館	度数	47	118	65	4	1
	%	20.0	50.2	27.7	1.7	0.4
美術工芸館	度数	3	3	21	206	2
	%	1.3	1.3	8.9	87.7	0.9
キャリアセンター	度数	6	25	68	133	3
	%	2.6	10.6	28.9	56.6	1.3
保健室・ウェルネス支援室・学生相談室	度数	6	8	78	141	2
	%	2.6	3.4	33.2	60.0	0.9
コミュニケーションタイム	度数	2	7	14	209	3
	%	0.9	3.0	6.0	88.9	1.3
UNIPA クラスプロファイル機能	度数	22	59	87	66	1
	%	9.4	25.1	37.0	28.1	0.4
Webテキスト「リエゾンゼミ・ナビ」	度数	0	6	32	196	1
	%	0.0	2.6	13.6	83.4	0.4
tfuマイカルテシシステム・tfu元気点検道場・tfu元気点検票かるた	度数	0	0	14	220	1
	%	0.0	0.0	6.0	93.6	0.4
注:以後の分析においては、以下のように再カテゴリ化する						
図書館:「頻繁に」「ときどき」「たまに・なし」の3カテゴリ						
美術工芸館、キャリアセンター、保健室:「頻繁に、ときどき」「たまに」「なし」の3カテゴリ						
コミュニケーション・タイム、Webテキスト、元気点検票:「頻繁に、ときどき、たまに」「なし」の2カテゴリ						
クラス・プロファイル:「頻繁に」「ときどき」「たまに」「なし」の4カテゴリ						

2. 学士力達成度・意欲の伸び

学士力達成度、意欲の伸びを図 1-1 に示す。達成・意欲の程度順に並べ変えたものが図 1-2 である。

学士力達成度、意欲の伸びの 21 項目の各々はいずれも平均値 3.5 以上（伸びたことを意味する）であり、リエゾンゼミⅡは学士力を伸ばす教育効果があるといえる。特に「教員・友人との関わり」「他者との協働・協同」「コミュニケーション」に関する事項の達成度が高く、また「ICT を用いた情報収集」の達成度も高い。このことはそれぞれのゼミにおいて設定された課題における共同活動が積極的かつ円滑に行われていることが想定されるが、一方で「分析・解決」「レポート表現」に関する事項は相対的に低い達成度となっている。学びの基礎段階から専門性を身に付ける段階の過渡期に行われるリエゾンゼミⅡの特殊性が現れたものと考えられる。

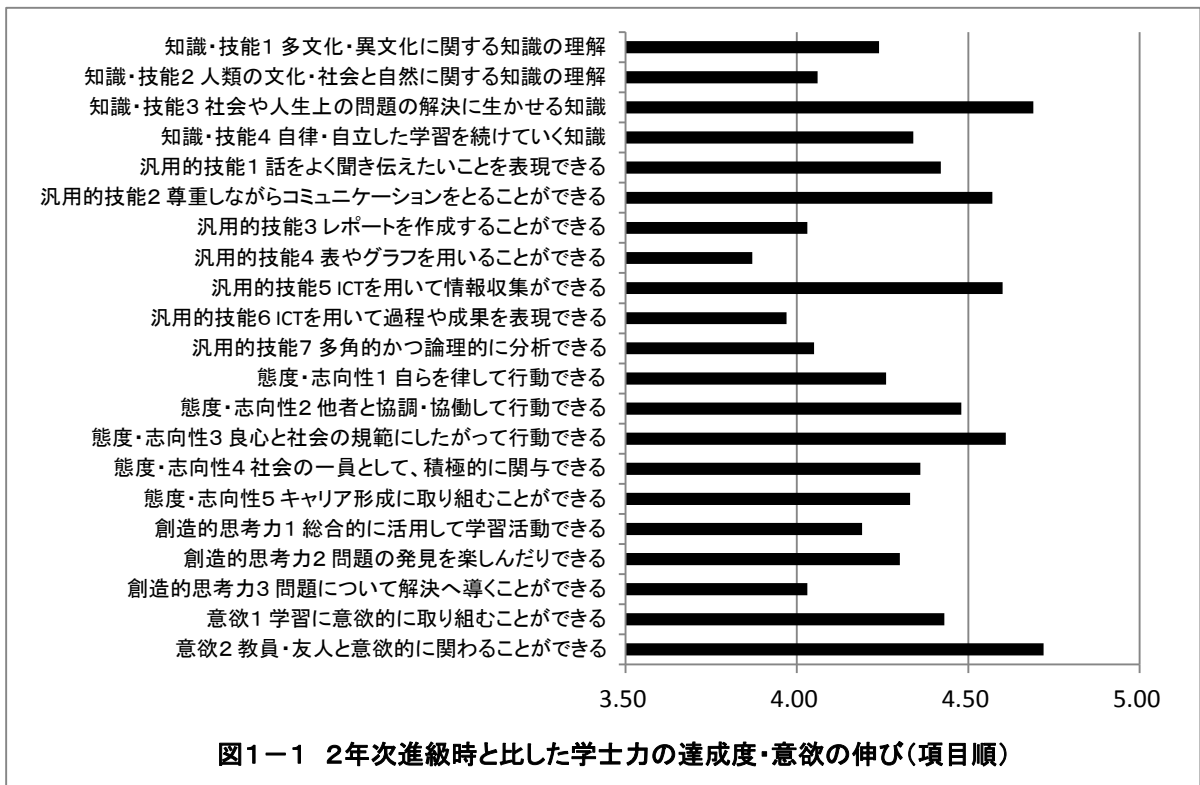


図1-1 2年次進級時と比した学士力の達成度・意欲の伸び(項目順)

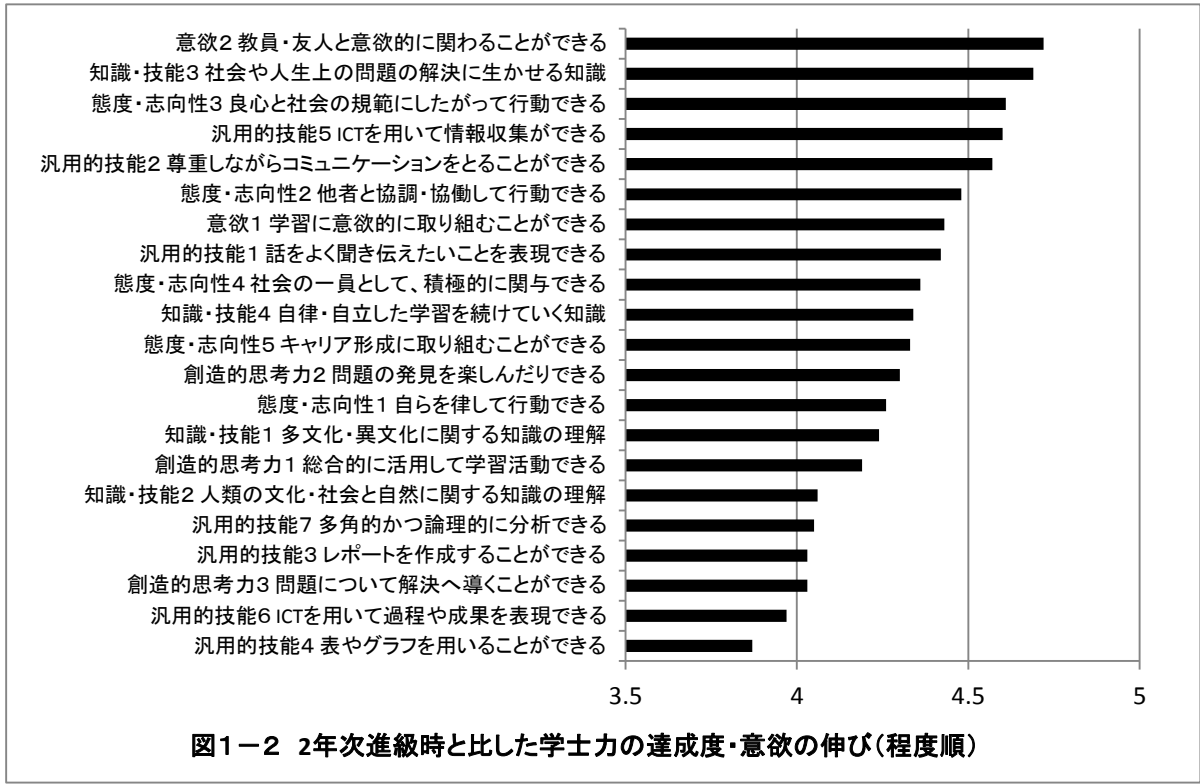


図1-2 2年次進級時と比した学士力の達成度・意欲の伸び(程度順)

4. 属性と学士力達成度・意欲の伸び

学士力達成度・意欲の伸びと統計的に有意に関連がみられた属性は、表3の通りであった。

「ボランティア活動」「国際交流」「キャリアデザインⅡ」にはそれぞれ異なる側面で学士力の形成に寄与していることが示され、これらの学内教育資源を有効に活用することが総合的な学士力を高めることに

つながることが示されたと言えよう。また、1年次のアンケート結果と合わせて考えると、部・サークル活動は1年次で効果的であり、ボランティア活動は2年次で効果的であった。

表3 属性と学士力達成度・意欲の伸び

		性別	入試形態	居住形態	部・サークル活動	ボランティア活動	国際交流	アルバイト	ゼンカリアアデ	育実学臨床教	副専攻
知識・技能	多文化・異文化に関する知識					有>無	有>無				
	人類の文化・社会と自然に関する知識	男性>女性					有>無				
	社会や人生上の問題の解決に生かせる知識										
	自律・自立した学習を続けていく知識						有>無				
汎用的技能	話をよく聞き伝えたいことを表現できる								有>無		
	尊重しながらコミュニケーションをとることができる								有>無		
	レポートを作成することができる	男性>女性							有>無		有>無
	表やグラフを用いることができる	男性>女性									
	ICTを用いて情報収集ができる										
	ICTを用いて過程や成果を表現できる						有>無				
態度・志向性	多角的かつ論理的に分析できる					有>無					
	自らを律して行動できる					有>無					
	他者と協調・協働して行動できる					有>無					
	良心と社会の規範にしたがって行動できる							有>無			
	社会の一員として、積極的に関与できる										
創造的思考力	キャリア形成に取り組むことができる					有>無			有>無		
	総合的に活用して学習活動できる	男性>女性							有>無		
	問題の発見を楽しんだりできる										
意欲	問題について解決へ導くことができる	男性>女性							有>無		
	学習に意欲的に取り組むことができる										
	教員・友人と意欲的に関わることができる										

5. 施設・設備の利用と学士力達成度・意欲の伸び

学士力達成度・意欲の伸びと統計的に有意に関連がみられた施設・設備の利用は、表5の通りであった。どの施設・設備においても、「利用なし」の者は、「ときどき」「たまに」利用する者よりも、達成度や意欲の伸びが低いという結果となった。先の項と同様、「図書館」「キャリアセンター」といった学内資源が学士力の形成に寄与していることが示されたと言える。

表4 施設・設備の利用と学士力達成度・意欲の伸び

		図書館	美術工芸館	キャリアセンター	室室ル保 ・ネ健 学ス室 生支・ウ 相援エ 談	ムシコ ヨミ ンシュ ・ニ タケ イ	イスユ ル・ニ プパ ロの フク アラ	出ト w 会 学 e い び テ 『』 と キ の ス	元 気 点 検 票
知識・技能	多文化・異文化に関する知識の理解	頻繁に>たまに		ときどき、たまに>なし					
	人類の文化・社会と自然に関する知識の理解	頻繁に>たまに	たまに>なし	たまに>なし				たまに>なし	
	社会や人生上の問題の解決に生かせる知識	頻繁に、ときどき>たまに		ときどき、たまに>なし					
	自律・自立した学習を続けていく知識	頻繁に>ときどき、たまに		ときどき>なし		たまに>なし			
汎用的技能	話をよく聞き伝えたいことを表現できる			ときどき>なし					
	尊重しながらコミュニケーションをとることができる			ときどき>なし	たまに>なし	たまに>なし			
	レポートを作成することができる		たまに>なし				頻繁に>ときどき		
	表やグラフを用いることができる		たまに>なし						
	ICTを用いて情報収集ができる	頻繁に>たまに							
	ICTを用いて過程や成果を表現できる	頻繁に>たまに					たまに>なし		
態度・志向性	多角的かつ論理的に分析できる	頻繁に>たまに		ときどき>なし		たまに>なし			
	自らを律して行動できる	頻繁に>たまに		ときどき>たまに、なし					
	他者と協調・協働して行動できる	頻繁に>たまに							
	良心と社会の規範にしたがって行動できる	頻繁に>たまに						たまに>なし	
	社会の一員として、積極的に関与できる	頻繁に>たまに		ときどき>なし	たまに>なし				
創造的思考力	キャリア形成に取り組むことができる	頻繁に>たまに		ときどき、たまに>なし	たまに>なし				
	総合的に活用して学習活動できる	頻繁に、ときどき>たまに			たまに>なし			たまに>なし	
	問題の発見を楽しんだりできる	頻繁に>たまに		ときどき>なし		たまに>なし			
意欲	問題について解決へ導くことができる	頻繁に>たまに						たまに>なし	
	学習に意欲的に取り組むことができる	頻繁に>ときどき、たまに		ときどき>なし				たまに>なし	
	教員・友人と意欲的に関わることができる	頻繁に>ときどき、たまに						たまに>なし	
	図書館:「頻繁に」「ときどき」「たまに・なし」の3カテゴリ								
	美術工芸館、キャリアセンター、保健室:「頻繁に、ときどき」「たまに」「なし」の3カテゴリ								
	コミュニケーション・タイム、Webテキスト、元気点検票:「頻繁に、ときどき、たまに」「なし」の2カテゴリ								
	クラス・プロフィール:「頻繁に」「ときどき」「たまに」「なし」の4カテゴリ								

【資料1 学士力達成度・意欲の伸びの項目】

(1) 知識・理解

- 1) 2年次進級時に比べ、さまざまな文化や自分とは異なる文化の立場の人の考えや気持ち、行動をとらえるようになり、多文化・異文化に関する知識の理解ができた
- 2) 2年次進級時に比べ、歴史的文化的な事象や社会の事象、自然の事象について、その意味とその事象が起きた理由と自分との関連をとらえるようになり、人類の文化・社会と自然に関する知識の理解ができた
- 3) 2年次進級時に比べ、将来に出会う社会の問題や人生上の問題の解決に生かせる知識を学んだ
- 4) 2年次進級時に比べ、自律・自立した学習（自ら進んで、到達目標と学習計画を立て、実践し、自己および他者による点検や評価を行い、改善と見直しをするという取り組み）をこれから続けていくための知識や情熱を獲得した

(2) 汎用的技能

- 5) 2年次進級時に比べ、他人の話をよく聞き自分の伝えたいことをわかりやすく表現できるようになった
- 6) 2年次進級時に比べ、自分とは異なる意見を持つ人と互いを尊重しながらコミュニケーションをとることができるようになった
- 7) 2年次進級時に比べ、証拠に基づいてわかりやすく説得力のあるレポートを作成することができるようになった
- 8) 2年次進級時に比べ、表やグラフを用いて分析し、理解し、表現することができるようになった
- 9) 2年次進級時に比べ、インターネットなどの情報通信技術（ICT）を用いて問題解決のための情報収集ができるようになった
- 10) 2年次進級時に比べ、プレゼンテーションソフトなどの情報通信技術（ICT）を用いて問題解決の過程や成果を表現できるようになった
- 11) 2年次進級時に比べ、ものごとを多角的かつ論理的に分析できるようになった

(3) 態度・志向性

- 12) 2年次進級時に比べ、時間の管理や健康管理、感情や欲求の適切なコントロール、状況に応じた適切な対処行動など、自らを律して行動できるようになった
- 13) 2年次進級時に比べ、他者と協調・協働して、目標の実現のために、問題を共有し、方向性を示し、行動できるようになった
- 14) 2年次進級時に比べ、自らの良心と社会の規範やルールにしたがって行動できるようになった
- 15) 2年次進級時に比べ、社会の一員としての意識を持ち、人びとの幸せや地域・社会の発展のために積極的に関与できるようになった
- 16) 2年次進級時に比べ、自分をよく理解し、将来の展望を描き、キャリア形成に取り組むことができるようになった

(4) 統合的な学習経験と創造的思考力

- 17) 2年次進級時に比べ、実際場面で出会う課題について、これまで獲得したさまざま知識と理解、汎用的技能、態度・志向性を総合的に活用して学習活動できるようになった
- 18) 2年次進級時に比べ、社会を広く見わたし疑問に思ったり問題の発見を楽しんだりできるようになった
- 19) 2年次進級時に比べ、発見した問題について情報を集め、討議や調査などを行い、ねばり強く分析・整理して解決へ導くことができるようになった

(5) 意欲

- 20) 2年次進級時に比べ、大学での学習に意欲的に取り組むことができるようになった
- 21) 2年次進級時に比べ、大学で教員・友人と意欲的に関わるできるようになった